〔東洋の人物・動物像展によせて 1〕

人物像から仏像へ

中国の人物像は、最も初期のものとして、新石器時代・仰韶文化期（ほぼ紀元前 5 千年紀）の彩文土器の人面絵画や塑造人頭部、器蓋の人面などがあり、既に造形性に優れたもので、驚かされます。

青銅器が主流であった次の殷代の後期（紀元前1300年～1050年）のものとして青銅製方鼎の四面に浮彫りされた人面の唯一の遺例があり、玉の小像は、続く西周時代や戦国時代の玉彫の像と共に、人々の表情や興味深い風俗をも写し出しています。戦国時代の有名な金村古墳（河南省洛陽市）から出土した銅製の鳥飼立像は、丸顔の風貌や厚地筒袖の服装に大和文華館の青銅人物像（図）と通じるものがあります。以上の人物像には、人々の精神の中に鬼神の世界が宿り、鬼神を畏怖し鎮めるための祭祠用具として奇怪な青銅器を次々と生み出していた時代のものとは思えぬ隠やかさや理性が感じられ、それこそが、いつの時代にも人間像の造形に際して求められたものかとさえ思われます。

それが最も強く感じられるのは秦の始皇帝の陵墓の一端から発掘された、6,000余体にも上る兵馬俑です。等身大あるいはそれ以上の武士（図）は表情や装備に個性があり、立ちあるいは坐るその姿勢には威厳があり、皇帝の絶大な権力を示すものでありながら、その下に抑圧された暗さはありません。むしろ、中国の統一を果した時代の芸術の高揚を示しています。

漢代には人間のあるべき姿をモラルで統制した儒教が前面に押し出され、礼教主義の実践が墳墓の世界にまで及び、墓の内部にはいわゆる画像石（又は塼）と呼ばれ、石や塼の表面に墓主の死後の世界をも再現するための、儀式的・日常的な光景を描いた類形的な浅浮彫り彫刻が行われました。

その後漢の頃から、人物像に混じって仏像が登場して来ます。江蘇省連雲港市孔望山の磨崖石刻や四川省楽山の麻浩崖墓の線刻坐像で、これらは次の三国～晋時代の銅鏡中の仏像（図）や陶磁の魂瓶（図）、銅製の揺銭樹のインド・ガンダーラ風の仏像と共に、未だ、仏像としての認識がなされず、神仙と同じような、俗信の神として造形された趣きがあります。中国風の仏像はまだ神仙像風な厚い衣に身を包んで両手を合掌しています。仏像としての自覚は、銅鏡中のはっきりと肉髻を持ち施無畏与願印を結ぶ坐像や、両脇に張り出した天衣や蓮華を持つ菩薩立像、首をかしげた半跏思惟像や、シルエットながら飛天の像が現われたことに認められます。

これらの仏像は、新来の仏教思想に基いたものとして、中央アジアを通じてのガンダーラやマトゥーラの造形によっているのは当然ですが、中国風な仏像には、画像石中の人物像や神仙像などに近いものがあります。宗教の像としては、一定の型に基かざるを得ず、中国的な仏像は特に、次の五胡十六国時代の独立した礼拝像にしても、硬直化した形式的な坐像にまとまっています。それは、仏像創始期に既に極めて人間的な写実に富んだ像を生み出したガンダーラの仏像とは大きく異なり、秦の武士俑のような等身大の仏像の出現も北魏の雲岡の大仏まで待たなければなりません。その意味で、後漢の2世紀後半の霊帝のときに、笮融が金盤を飾った3千人も入る重層の伽藍を建て、黄金を塗った仏像をつくり錦の衣を着せたという仏像がどのようなものであったかは真に興味がもたれます。

中国の仏像において、肉体の把握を伴った人間的な造形を見るのはようやく唐代からのことです。

一方、わが国においては、仏像以前の人体像は、中国の秦の時代にも当たる縄文時代の女性を形どった土偶の呪術的な像に始まり、これらは中国の創始期の人物像よりはるかに抽象的で怪奇ですらあります。立体的なものとして次に登場したのは古墳時代の埴輪（図）ですが、これは秦の兵馬俑と同じく、埋葬の殉死の制に替えるものに始まり、墳墓の外に立てる大量の必要から手間をかけずに作られた直立のものであって人体の把握は希薄です。むしろ、この古墳中より中国製の仏像を表わした銅鏡が発見されていますが、それらの仏像としての認識は充分ではなく、わが国の仏像は矢張り、韓半島や中国からの独立像としての仏像が手本となったのでしょう。そして、その作者には、新しい仏教文化の到来と共に盛んになった金工作者（鞍作止利など）か、外国の工人が直接当ったのです。その頃の埴輪作者は、奈良を中心とする近畿から、むしろ関東に移り、その地でもっと自由なのびのびとした埴輪を作りました。

そして、わが国においても、写実的人体に仏像が近ずくのは白鳳時代からです。　（村田靖子）

魂瓶中の仏像

埴輪鷹狩男子像

青銅人物像

武士俑

銅鏡中の仏像

季刊 美のたより No.106
平成 6 年 2 月 17 日
発行 大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.